



Monthly Pediatrics News Letter

第82号

令和6年2月

発行：産業医科大学小児科学教室

作成者：保科隆之（小児科通信係）

<はじめに>

産業医科大学小児科医局員、小児科入局を表明している初期研修医・学生の皆さん、日ごろの業務および勉強ご苦労様です。

1月は、1日に北陸地方の地震、2日は羽田空港での飛行機事故、そして3日はJR小倉駅近くの商店街での火災と大きな災害が立て続けに起きました。自然災害は防ぎようがありませんが、事故や火災は人が気を付ければ防げたのかもしれませんが。飛行機事故については、思い込みやコミュニケーションエラーなどが重なって生じた可能性が高いようで、誰かの責任というよりは安全システムの問題と言えるのかもしれません。医療についても同様で、さまざまなチェック機能がうまく働かなかった場合に医療ミスが生じます。「必ずこうなっているはず」などといった思い込みを捨て、いつも慎重に行動することが重要であるということを新年早々再認識することになりました。

毎月配信しております小児科通信をお送りします。今回も大学で行われたイベントや学会参加予定などをお知らせします。小児科入局を表明していただいた学生の皆さんと当教室に興味を持っていただき見学に来られた学生さんと先生にもお送りしております。提供する情報に興味を持っていただけると嬉しいです。

通信を読んだ感想やご意見・ご要望を小児科通信制作責任者 (hoshina@med.uoeh-u.ac.jp) までお寄せください。今後の参考にさせていただきます。

<1月の医局行事>

1月15日 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

担当は血液グループで、白山先生、伊藤先生、緒方先生が「乳児血管腫 Update」というテーマで発表しました。

1月25日 産業医科大学小児科セミナー

毎年1月は教室外の先生をお招きして、専門領域のお話をさせていただいています。今年は、本学衛生学の辻 真弓教授、エコチル調査産業医科大学サブユニットセンターの菅 礼子先生、そして現在衛生学に所属している桑村先生に「エコチルデータを利用して研究・論文作成してみませんか？」という内容でご講演いただきました。国家プロジェクトであるエコチル調査について詳細にご説明いただきとても有意義でした。今後、ぜひコラボレーションして新しい研究ができればという気持ちになりました。

1月27日 令和5年度産業医科大学小児科同門会

コロナ禍で開催できなかった教室の同門会が4年ぶりにリーガロイヤルホテル小倉で開催されました。多くの同門の先生が参加され、盛会でした。



<2月の医局行事予定>

2月2日 18時～ 令和6年第1回小児科医局説明会

医学部5年生を対象にした医局説明会を開催します。まだ将来の進路を決めかねている学生さんが多いとは思いますが、小児科の良さをアピールできたらと考えています。後輩が多くなることは良いことですので、若い先生はぜひ参加してコミュニケーションを取ってください。

2月19日 19時～ 産業医科大学小児科臨床カンファレンス

演題名：日常診療に潜む小児のAKI

演者：齊宮 真理、平川 潤、煙草谷 ひかる

場所 産業医科大学大学2号館2階 2208教室

2月の臨床カンファレンスは、腎グループの担当です。

2月29日 18時～ 産業医科大学小児科セミナー

演題名：新生児・乳児における位置的頭蓋変形（頭のゆがみ）に対するヘルメット療法を含む最新の知見 —脳神経外科と小児科の視点から—

演者：菅 秀太郎、田中 健太郎、長坂 昌平 先生（産業医科大学脳神経外科）

場所 産業医科大学大学2号館 2208教室

2月の臨床カンファレンスは、新生児グループの担当です。

19日および29日開催のカンファレンスは、会場とZoomを使ったWeb配信のハイブリッド開催です。遠方からも聴講できますので、興味のある方は医局まで連絡してください。視聴方法をお知らせします。

<2・3月開催予定の学会・研究会>

2月および3月上旬に医局員が参加する予定の学会・研究会をお知らせします。

- 2月11日 第7回日本小児内分泌学会九州沖縄地方会（宮崎・宮崎市民プラザ）
参加者：山本、齋藤、桑村、多久[※]（発表予定）、池上
- 2月16日 北九州ワクチンセミナー（Web）
講演者：保科
- 3月2日 第524回 日本小児科学会福岡地方会
（福岡・九州大学病院ウエストウイング棟臨床大講堂）
発表予定者：山口、煙草谷
- 3月3日 第29回九州沖縄腎生検フォーラム（九州大学病院）
参加者：齊宮、平川

上記に興味があり、参加を希望される方および詳細を聞きたい方は、小児科医局に電話（093-691-7254）をいただくか、メール（hoshina@med.uoeh-u.ac.jp）をお送りください。学会参加費を補助することも検討しています。

<論文掲載情報>

当科医局員が筆頭著者もしくは共著者として名前の入っている論文の掲載情報です（12・1月掲載分）。小児科専門医取得のためには、自身が筆頭著者である論文が必要になります。当教室では、修練医にも積極的に論文作成に携わってもらい、専門医試験の受験資格をクリアできるよう指導しています。また、できるだけ英文雑誌への投稿を勧めています（PubMedに自分の名前が出てくると嬉しいですよ）。このことは、市中の総合病院ではなかなかできない利点だと思います。論文を作成することで、より理論的な考え方ができるようになります。診療の視点を広げるためにも、論文作成に積極的に取り組みましょう。

1. Kuwamura M, Tanaka K, Onoda A, Taki K, Koriyama C, Kitagawa K, Kawamoto T, Tsuji M. Measurement of Bisphenol A Diglycidyl Ether (BADGE), BADGE derivatives, and Bisphenol F Diglycidyl Ether (BFDGE) in Japanese infants with NICU hospitalization history. BMC Pediatr 2024; 24: 26.

<おわりに>

小児科通信第82号はいかがでしたか。掲載した情報が皆さんの役に立てば嬉しいです。

6年生の皆さんは、まもなく医師国家試験ですね。先月号にも記載しましたが、平常心

で臨めば必ず良い結果が届くと思いますので、「神頼み」と「運が離れないように日ごろの行いを良くすること」を忘れずに、本番を迎えてください。国家試験が終わったら、長い休みが待っており、卒業旅行を計画されているのではないかと思います。働き始めると1か月以上も連続して休めることはないため、十分楽しんでください。

最終的にはこの通信を読んでいる学生と初期研修医の皆さんが大学の医局に所属し、一緒に働けることが上級医の望みです。また、すでに小児科医として働いている皆さんが、日常診療や学会参加を通じてより一層レベルアップされることを願っています。

今年は暖冬傾向であり、いつもの冬ほど寒い日が多くありません。2月3日は節分であり、暦の上では春を迎えます。春は異動の時期でもあり、落ち着かない人もいるかもしれませんが、冒頭に記載したように過信や思い込みに注意してしっかりと日々の診療を続けてください。

文責：保科 隆之（小児科通信制作係）